

おひざのうえで 2023年度⑧

(副園長の子育て応援通信)

「昇り龍」

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで



はじめに、能登半島地震で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

震源地からはるかに遠い大阪でも激しい横揺れが長く続きました。震源地に近い方々の恐怖はいかほどだったかとお察しします。多くの家屋が倒壊し、道路がひび割れ分断されている報道を見ると、被害の大きさに驚きます。すぐに知り合いや、石川に帰省中の娘家族に連絡をしましたが、余震の中で身を守るのが精一杯とのこと。道路も分断され、水も出なくなり生活もままならない様子でした。東日本大震災や阪神淡路大震災の記憶がよみがえり、どうか被害が最小限でありますようにと祈るばかりです。そして一日も早い被災地の復興のために、私たちにもできることを考え、行動を起こしていくことが大切だと感じました。

子どもたちは、幼稚園での避難訓練を思い出してすぐに机の下に入って避難していたという話を聞きました。羽田空港での航空機衝突炎上事故で、緊急時に奇跡的に全員が脱出できたのも、スタッフの緊急時のための訓練と判断力のたまもの。様々な緊急時に、どのように避難すればいいかどのような行動を起こすべきか、改めてシミュレーションをし訓練を行うことの重要性を感じました。

さて、今年は辰年ですが、辰や龍と言えば「エルマー」や「まんが日本昔話の昇り龍」が思い浮かびます。子どものころは、まんが日本昔話に出てくる龍に乗ってみたいなあと思っていました。龍に乗って行ったことのない場所に行って、見たことのない物を見たいとずっと思っていました。龍は昔から神聖なものであり縁起のいい空想の生き物ですから、こどもたちには、龍に乗った気持ちで初めてのことにたくさんチャレンジしながら登っていくような一年であってほしいなと思います。

昨年、京都市右京区にある妙心寺を拝観しました。重要文化座に指定されている法堂の天井に、巨大な丸の中に大きな龍が描かれています。作者は狩野探幽で、8年もかけた大作と言われています。通称「八方睨みの龍」と言われ、どこから見てもこっちを向いているように感じます。また、見方によっては昇っているようにも下っているようにも見えます。首が痛くなるぐらいずっと龍を見上げながら、その龍に圧倒されながら、ふと、「見る人によってちがう・・・」というところに引っかかりました。そして気が付けば幼児教育の見え方と本質の違いについて考え込んでいました。少し見ただけでは何を大切にしているのかわかりにくい乳幼児教育。今年も、そのわかりにくさを乗り越えて乳幼児教育の重要性を社会に伝えていきたいと思っています。できればまんが日本昔話の登り龍に乗って(笑)。

さて、我が家は娘・息子家族が7日まで帰省していました。10人家族の賑やかな生活。家の中はカオスでした。孫に喜んでもらおうと、風のない日に公園で凧の糸をもって必死に走るじいじと、食べたくなるようにあれこれ料理するばあばは、孫に好かれたい一心です。4人の孫を次々お風呂に入れるじいじ、家事を中断して絵本とひと遊びのばあば。孫が帰るころには体力が限界を迎えていました。子育ては何よりも長時間労働の重労働だとまた改めて感じました。日ごろ子育てを頑張っているパパさんママさんに頭が下がります。いつもお疲れ様です。

そして布団も食器もおもちゃも一気に片付け、冬休みの私の宿題、原稿3つ、研修プレゼン2つ仕上げで3学期を迎えます。皆さんはどのような年末年始でしたか？またお話を聞かせてくださいね。

最後になりましたが、本年もどうぞよろしくお願いいたします。